



写真1 鶴岡市から見た手稲山砂丘（自衛隊演習地へ向かう道）

手稲山が生んだ？ 紅葉山砂丘

札幌市の手稲前田から石狩市の花川、生振、美登位へと続く細長い砂の丘が、紅葉山砂丘です（写真1）。すでに大半が失われ、今では断片的に残っているだけですが、今からおよそ六千年前は、当時の海岸から伸びる2本の細長い砂州でした（図1）。その後、海水面の低下によって陸地になり、さらに風によって砂が吹き集められてできたのが現在の砂丘です。

現在、砂丘がよく残っているあたりを歩いてみると、丸い、こぶし大の小石が地面に転がっているのを見ることがあります。実はその丸い石は、地下で砂丘に沿ってびっしりと集まっていて、紅葉山砂丘の土台となっているものです。この石はどこにでもある石のようですが、砂丘誕生の秘密を解く手がかりがここに隠されています。

まず石の形。丸いといっても、場所によって微妙に違いがあります。手稲前田で見られる石はボールのように球状をしていて、大きさはまちまちです（写真2）。このような特徴は河原の石によく見られ

ます。それに対して花川で採れた石は、碁石のように平べったい円盤状で、大きさはだいたい揃っています（写真3）。これは海岸の石の特徴です。つまり、石は山の方から川の流れによって、当時の海岸まで運ばれてきた、ということがわかります。

もうひとつの手がかりは石の種類です。手稲前田や花川の石は、ほとんどが溶岩が冷えて固まってできた火山岩でできています。これは手稲山周辺の山々を形作っている岩石です。ところが美登位で採

歴史のドアを開けよう
いしかり博物誌

■文化財・博物館開設準備室 ☎72-6123

e-mail: bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

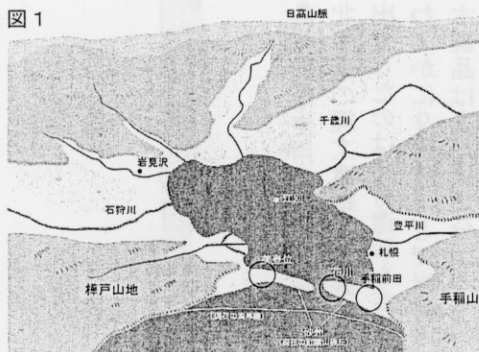


図1

およそ六千年前の石狩平野の鳥瞰図（石狩湾上空から）。石狩市の大部分は海の底でした。二本の砂州は現在の紅葉山砂丘になります。



写真2 手稲前田で見られる石。球状に近く、大きさはまちまちです。それは河原の石の特徴です。

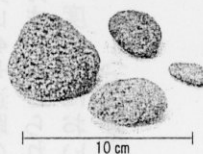


写真3 花川の地下から採取した石。平べったく、大きさは揃っています。海岸の石に似ています。

10 cm